連歌式目（連歌のルール）

1 部立

【ふだて　素材の分類】この世の物象事象を、天然界8、人間界8、人間1の17の素材に分類する。さらに、天然界の〔A天〕〔B地〕〔C媒〕〔D飾〕を、それぞれ人間界の〔A天〕〔B地〕〔C媒〕〔D飾〕に照応させて、自然と人事とのあるべき統一の姿を示している。2分割を反復する配置は胎蔵界曼陀羅型である。

【天然界】

A 天

- ①光物　日　朝日　夕日　春日　月　望　三日月　有明　星　流星　昴　星月夜
- ②時分　【夜】宵　闇　夢　床　【朝】曙　東雲　月入　【夕】暮　入相　月出
- ③聳物　霞　陽炎　虹　霧　露　雲　雲の峰　煙　朝煙　夕煙

B 地

- ⑤山類　〔体〕山　麓　峰　尾上　谷　洞　岨　島　坂　〔用〕畑　棧　滝　滝竈
- ⑥水辺　〔体〕海　川　津　浦　島　磯　沢　堤　岸　〔用〕水　波　氷　汐

C 媒

- ③聳物　霞　陽炎　虹　霧　露　雲　雲の峰　煙　朝煙　夕煙
- ④降物　雨　五月雨　時雨　露　霜　雪　吹雪　霰　霙　夕立　村雨

D 飾

- ⑥水辺　〔体〕海　川　津　浦　島　磯　沢　堤　岸　〔用〕水　波　氷　汐
- ⑦動物　〔獣〕鹿　牛　馬　犬　〔鳥〕鶯　時鳥　雁　〔虫〕蝶　松虫　蝙蝠
- ⑧植物　〔木〕花　梅　松　柳　〔草〕芹　撫子　尾花　〔竹〕笹　篠　笋

【人間】

- ⑨人倫　君　我　汝　人　父　母　誰　彼　主　某　友　仇　姿　身　防人　関守　渡し守

A 天

- ⑯神祇　神　宮　社　御前　祭　玉垣　神子　相撲　小忌衣　柏手　放生
- ⑰釈教　仏　寺　御法　経　法師　僧　尼　出家　心の月　袈裟　庫裏

B 地

- ⑫旅　草枕　旅衣　旅路　舎　田舎渡り　都を思ふ　海路　渡舟
- ⑬名所　〔山類の〕富士山　双ヶ岡　〔水辺の〕由良門　琵琶湖　〔居所の〕志賀の古里

C 媒

- ⑭恋　契　縁　妹　背　玉章　乱髪　後朝　辛き　独　睦語　私語　兼語
- ⑮述懐　〔述懐〕世　親子　命　〔懐旧〕昔　いにしへ　〔哀傷〕無常　亡き人

D 飾

- ⑩居所　〔体〕里　家　宿　屋　門　戸　籬　窓　樞　〔用〕外面　庭　小簾
- ⑪衣裳　衣　袖　袂　衿　袴　浴衣　下紐　絹　麻　錦　綾　褸　鶉衣

2 句数

【くかず　連続使用可能数】部立ての17の素材に四季の4を加え、都合21の素材の連続使用可能数を定める。◎は連続使用が義務づけられている数。Ⅰの3素材にのみ存在する規定。〔本歌本説〕を素材として扱う場合、もとⅡ型、後にⅢ型となる。句数の区分は、3を分割の基本数としており、従って配置は金剛界曼陀羅型。

	Ⅰ 5句まで	Ⅱ 3句まで	Ⅲ 2句まで
勅撰集部立て①	春◎◎◎◎◎ 秋◎◎◎◎◎ 恋○○○○○		
勅撰集部立て②		夏○○○ 冬○○○ 述懐○○○ 神祇○○○ 釈教○○○ 旅○○○	
私撰集部立て①		山類○○○ 水辺○○○ 居所○○○	
私撰集部立て②			光物○○○ 時分○○○ 人倫○○○ 聳物○○○ 降物○○○ 名所○○○ 動物○○○ 植物○○○ 衣裳○○○

3 句去

【くさり　再使用までの待ち数】下位区分のある素材は、同一区分相互5句去り、異区分は相互3句去りが原則。一部に2句去りあり。＊印は別に考えるべきもの。述懐の3区分は句去りには関係しない。○下位区分のない部立ては、天然界の天と媒にかかわる3素材のみ3句去り。これ以外は5句去り。○季と人倫は別立て。

Ⅰ 下位区分のない部立て

天然界　天媒　天然界　地　人間界　天媒地飾

	光	聳	降
光		3	
聳			3
降			

○三句去りは　光物　聳物　降物

	山	水	神	釈	恋	述	旅	居	衣
山									
水	5								
神		5							
釈			5						
恋				5					
述					5				
旅						5			
居								5	
衣									5

○五句去りは　山類　水辺　神祇　釈教　恋　述懐　旅　居所　衣裳

Ⅱ 下位区分のある部立て

時分

	夜	朝	夕
夜	5	3	3
朝	3	5	2
夕	5	3	5

名所

	山	水	居
山	5	5	3
水	3	5	3
居	3	3	＊

動物

	獣	鳥	虫
獣	5	3	3
鳥	3	5	5
虫	3	3	5

植物

	木	草	竹
木	5	3	2
草	3	5	2
竹	2	2	＊

Ⅲ 季

	春	夏	秋	冬
春	7			
夏		7		
秋			7	
冬				7

Ⅳ 人倫

	人
人	2